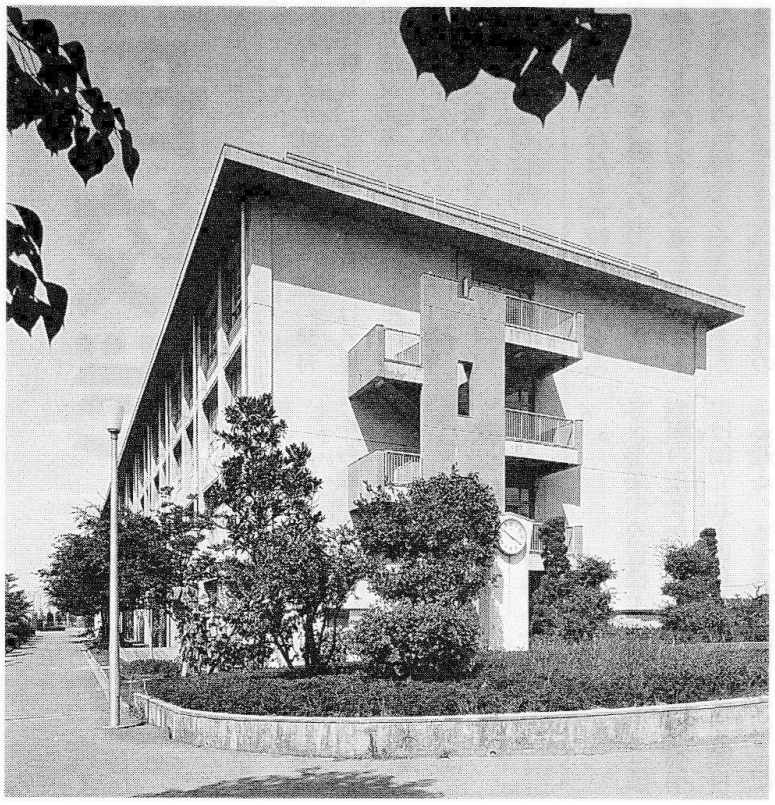
占春会報

第20号

発行　八尾市千塚2丁目95番地　大阪府立清友高等学校
占春会事務局　TEL（0729）41-3456

創立五十周年を迎え、ひしひしと伝統の重さを感じつつ!!



占春会員の皆さんお元気ですか。一万一千人におよぶ会員の皆さんが、常に郷愁の心を持ち、母校、清友高校の躍進ぶりを、うれしく見守って参りました。

本年は清友高校にとって、創立以来五十周年という、まさに半世紀を経る誠に慶ばしい年を迎えることになり、大いなる胸の昂ぶりを抑えることが出来ません。

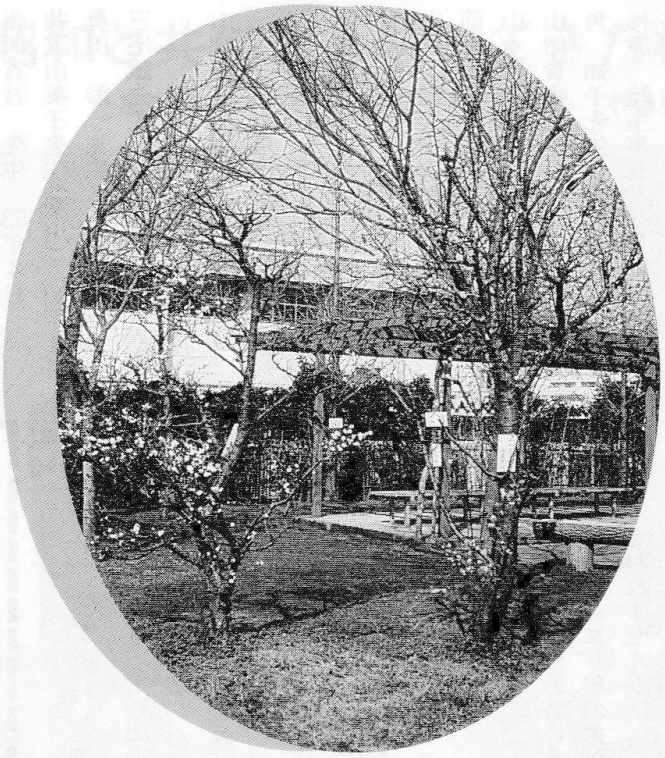
顧みて、昭和十六年に呱々の声をあげ、爾来五十年、私立高等女学校から八尾市立高等学校、そして、大阪府立高等学校へと変遷して参りました。が、しかし、いつの場合も、清友という名を残して欲しい、又、残さなければならないと、断固として頑張ってきました。切なる願いを理解して下さり、校名、校章、校歌も引き継がれていることを、とても誇りに思います。これも偏に、歴代の校長先生をはじめ諸先生方、PTAの皆様のご協力の賜物と心から感謝しております。

とにかく、〝清友〟の名前は残さねばならないのです。

清友が創立されて間もなく、第二次世界大戦もあり、やがて敗戦という悲しみ、貧困の苦しみは国民全体が味わったのです。今や日本は、経済大国といわれ世界の注目を浴びています。失業という言葉は遠い昔のようで、フリーアルバイターだとか。そのくせ労働力は不足しているのです。何だかまだちぐはぐな、日本であるように思いますが!!

清友高校の五十周年のこの節に、わが郷土大阪では花博が開催され、日本各地又世界各国からぞくぞくと人が訪れます。これも又、嬉しいことです。

会員の皆さん、どうぞ、それぞれの立場を大切に、健康に留意されて、活躍されんことを切に願いつつ、巻頭の挨拶と致します。



占春の園

占春会長　河合聿子

母校だより

五十周年を迎えて

学校長　吉岡一真

占春会の皆様、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

本校の中庭にある「占春の園」には、占春会から寄贈されました。「しだれ梅」「紅梅」「白梅」が今年も鮮やかに咲きました。満開の白梅の中に点在する紅梅の色は凛然としてみえ、馥郁たる香りは、私達の心を和ませてくれました。これらの梅を愛でるとき、卒業生一万一千人の皆様のことに心が馳せ、開校以来引きつがれている「梅と水」の校章を、梅を歌いこまれた校歌を、そして、本校の伝統をひしひしと感じるのであります。

本校は、今年創立五十周年を迎えました。

「昭和十六年四月十一日
晴天　九時挙式十一時半終了
感激に満ちたる入学式にて
参列者一同深く期する所あり」

これは、本校に保管されている開校式の日の教務日誌の一頁であります。当時の先生方、生徒達や保護者の方々の喜びや緊張や決意が行間に溢れ、胸のあつくなる思いがします。

本校は、戦まさにはじまろうとする昭和十六年四月、清友学園高等女学校として開校され、戦時中における学徒動員など苦難の歳月を体験し、三十一年九月には八尾市立清友高等学校となり、その後関係者のご尽力により、五十四年四月、大阪府立清友高等学校として、男女共学となり、今日に至りました。

半世紀にわたる本校の歩みをふり返るとき、歴史の中に一筋、常に真実を求めて不変の道を歩いてきた我が校の軌跡をみることができます。いつの時代にも、それぞれの時代の様相は違っていても、そこに脈々として流れ、受けつがれてきた校風を、ここに学んだ若者達がしっかりと感じて、巣立っていったに違いありません。

中国に「水を飲むときには、井戸を掘った人を忘れない」という言葉があります。この記念すべき年を迎えて「清友高校」を育てていただいた多くの人々のご苦労や愛情を忘れることなく、私達教職員、生徒一同、心を一にして、今後進むべき道を見極め、日々心を新たにして精進を重ね、本校教育の高揚・推進に努めてまいる所存であります。

占春会の皆様の一層のお力添えをお願い申し上げます。

教頭　福田定秋

卒業生の皆様ご健勝にて、ご活躍のことと存じます。母校も本年は創立五十周年という大きな節目を迎え、ますます発展していく記念すべき年となります。母校のたよりと、主な行事をお知らせしますので、ご高覧のうえ、ご指導ご助言くだされば幸甚に存じます。

記

■行事

体育祭　6月15日(金)
文化祭　10月6日(土)・7日(日)
五十周年記念式典　11月10日(土)

■先生方の異動

《転出》(平成2年3月31日付)
福田定秋(教頭)　池島高校校長へ
木戸範夫(社会)　八尾市立中学校へ
中谷英夫(社会)　茨田高校へ
畑　昭子(数学)　ご退職
山畑勝義(理科)　大阪市立南高校へ
和田直巳(英語)　枚方西高校へ
伊藤良恵(英語)　布施工業高校へ

《着任》(平成2年4月1日付)
藤原武則(教頭)　東寝屋川高校より
青木智久(社会)　清友高校より
石原　功(社会)　茨田高校より
小川雅生(数学)　大正高校より
加藤悠爾(理科)　八尾東高校より
船橋　渉(英語)　牧野高校より
田中英仁子(英語)　大塚高校より

《ご結婚》
藤田省吾　先生　63年4月
井上由美子先生(幸川)　63年4月
奥田　彰　先生　元年1月
三宅誠先生と
　奥田智子先生　元年7月
山畑勝義先生と
　音川須美子先生　2年3月

《ご出産》
伊藤良恵先生長女63年3月
竹本　隆先生長女63年5月
石橋　都先生次女63年6月
前田美子先生次男63年6月
山本　進先生長女63年6月
山田貴央先生次男元年8月
角　知子先生長女元年10月
杉原　睦主事長女元年11月
香川正行先生次女2年1月
藤田省吾先生長男2年1月
永見慶子先生次男2年3月

最後に私事ですが、この度池島高校校長に転勤することになりました。清友高校在職中は物心両面よりお世話になり厚くお礼申し上げます。清友を去るにあたって考えてみますが、何一つ、占春会・学校の発展に役立つことができなかったことが心残りです。今後、占春会がますます発展することを祈願して、転任のあいさつにさせていただきます。

原田彰先生を囲んで!!

昭和37年卒　すみれちゃん

元年の六月十一日、上六の和光庵にてクラス会を開きました。原田彰先生の北野高校教頭御就任のお祝いと重ねての集まりでした。

北野高校は原田先生が若かりし頃の学舎であり、今度は指導される立場で門をくぐられた事で感慨もひとしお深いものがあったのではないでしょうか…。

その事はさておいて写真でおわかりの様に原田先生のお若い事、まわりの私達とあまり年の差がないように思われませんか？

どうしてこのように若さが保てるのかしら、おばさんになった私達に教えてほしいものです…また楽しい事をみつけて集まりたいものです。ウーンと若づくりして！

卒業生通信

後輩達へ

中易敬子

わが母校　清友高校は今年で創立50周年を迎える運びとなった。現在の清水谷高校の前身、清水谷高女の同窓会である清友会が、40周年の記念事業として姉妹校を設立、即ち私立清友学園高女の誕生である。その後紆余曲折を経て、八尾市立そして府立高校となり、女子校から男女共学へと変貌を遂げ、曙川畔から千塚へと移転したのである。校名と校歌が引き継がれたことは同慶の極みである。(尤も運動した成果であるが…)さて一口に50年というが、半世紀である。その間、日本の国にとっても、太平洋戦争の始まりと終わりがあり、激動の時代であった。ご存知の如く、食べる物、着る物の不自由な時代に、夢多き青春時代を過ごした私達、今ふり返ってみても、いじらしい程明るく、素直で純情、けなげな乙女であった。

人の命の大切さ、物を大事に使うこと、耐えること、感謝すること、工夫することなど自然に身についた清友時代であった。〝欲しがりません、勝つまでは〟から〝職業選択の自由アハハーン〟と時の流れと共に大飛躍し、飽食、使い棄て、と経済大国、金持ち日本と移り変わり、恵まれた環境、豊かさの中に生まれ育った体格の良い、足のなーがい今どきの若者達、これからは高齢化問題、自然破壊問題、国際問題などなど避けて通れない深刻な課題を沢山かかえて、21世紀を担うあなた達、若さのパワーとエネルギーで力強くはばたいて下さることでしょう。

伝統ある清友の学舎で関わり合った後輩達、あなた達の母親以上の年齢の私達もがんばっている占春会です。ボツボツ選手交代の時期です。占春会の今後の発展と活動に、協力参加して下さる事をのぞみます。よろしく！

ごあいさつ

教頭　藤原武則

占春会会員の皆様にはご健勝でご活躍のことと存じます。私はこの度東寝屋川高等学校から教頭として本校に赴任して参りました。半世紀にも及ぶ伝統の重みと、力強い若々しさを兼ね備え、都市の喧騒を知らぬ学舎で生徒・職員が一体となって励んでおられるのに接し、清友高等学校に着任できたことを心から幸せに感じております。

同時に本年度は50周年記念事業の年でもあり、身を引き締めております。同窓会・PTA等の組織は伝統を反映した強力なものとお見受け致しましたが、さらに校内の関係諸先生と力を携えて、日常的な活動を発展させるとともに、50周年記念事業を成功させるため、同窓会と学校を結ぶパイプ役として努力いたす積もりであります。また日常の学校の活動を皆様に広報するとともに皆様のお声を頂戴する努力もいたす積もりでもありますので何卒よろしくご鞭撻をお願いいたします。

花見時が過ぎ、学校周辺のお花畑のチューリップが一斉に咲き、新学年が始動いたしました。一度学校へお立寄り下さり、母校の頑張りぶりをご覧頂きたく存じます。

昭和と共に生き抜いてきた私達!!

一期生　い組（昭和20年卒）　安座菅子　木場房子

昨年十月二十九日、阪急南千里駅前ホテルサンルート内「南地加賀」にて平成初の喜和会を催しました。抜ける様な青空の下、晴々とした顔の十四名が集合。

激動の時代を昭和と共に生き抜き、平成へと時代は大きく移り、感慨も一入!!お互いによくぞここ迄戦禍の中を生き延びたものと、改めて感謝し、賑々しく和やかに話題は尽きません。

唯一つ返信の葉書で、阿部美子様〔村林あきの〕が五月三日に御他界の旨を知り、一同胸を痛めありし日を偲んで御冥福を祈らせて頂く次回迄にこんな悲しい事の無い様元気で一年頑張りましょう!!と堅い握手を交しお開きにしました。

それぞれの事情で欠席の方も、母校五十周年記念を兼ねてのクラス会に揃って参加出来ます様に、祈念しつつ。

出会い大切に～21世紀にトライしよう

三期生　可児　瞳

清友学園が創立して50年。そして私共三期生は還暦の旅だちを迎えます。早いものですね、卒業して40年が過ぎた事になります。人生のワンコースを終えて顧みますと、私の原点はいつも清友学園に帰来します。最高の土壌で育まれた出会いを感謝しております。この度、占春会会報の投稿依頼を受けました。

『最近の身辺の事を綴って』とありました。

私を指名したのですから、少なくとも美辞麗句の名文は無い、功なく財のかけらも無さそうだが、今なお青春の気概が感じられるので何か書く、と判断されたのでしょう。タイム・カプセルの容器を開くまでもなく、48年前、青春真っ盛り(桜花爛漫の友と)の世代に、私どもは終戦前後の激動を経験しました。せいゆう世代です。

不思議に私には戦時中の悲惨な記憶はなく、何時も自由奔放に泳がせて頂いた学園の感性豊かな仲間たち、的確な洞察力でジャジャ馬(私)を調教してくださった諸先生との対話が走馬燈の様に思い出されます。

思えば、学問・知識の習得とは程遠い学園生活から、そしてその環境から、私は貴重な財産(出会い)を知らない内に得ていたのですね。現在に至る欠かせないプロローグとして記しました。

一九八〇年我が家のシフト生活も斬く落ち着いた頃、私は、思いがけない出会いの広場に駆り出されました。生命保険セールスの仕事です。今年、10月で勤続10年を迎えます。この会社での出会いが、私に更なる未知との遭遇・21世紀までもトライする生きがいをもたらせてくれたのです。

一九八八年九月、生命保険アンダーライティング学院に入学する幸運に恵まれました。

この学院は生保外務員が各生保会社から、推薦を受けて入る事のできる誇り高いセールスマン(業績・経験)の最高教育課程です。

勿論私にはその資格はなく、カメラアングルの才能?を期待されて入りました。まさに神の示唆とも申すべき出来事でした。入学すると学界の諸先生から、総合科学といわれる生命保険業務に携わるための、最高教育課程を学び、認定されると修士の学位が与えられ、誇り高く、活躍することになります。私には今更リポート・論文などとんでもない事でした。ただ85年度の卒業写真を撮ったのがきっかけで、学院のアルバム作りに関わる人材として、許可されたにすぎません。

まず入学して驚いた事は、世評の『保険のおばさん』とは程遠いキャリアウーマンの大集合でした。

授業は毎週土曜日　学会の権威者である大学教授の講義でした。授業中は眠くて困りましたが、覇気のある美しい被写体を、一年間気がねなく自由撮り出来るチャンスは大切にしたい。しかし本質の卒論は大変です。何といっても清友から40年の空白があり、元来学ぶ姿勢に欠けていますから、前途多難・苦闘の連続でした。

回りのエリート・アンダーライターは、哲学・文学・政治学などなど授業が楽しくて仕方ない様子でしたから、その差は大きく大ショックです。

半年が過ぎて、漸く授業のサイクルに慣れた頃から、今度は卒論に追われる毎日でした。

一九八九年八月、六十七名の十五期生は卒業し修士会員となる事が出来ました。

待望の米国研修旅行には半数の人が参加して、垣根をとり胸襟を開いての飽くなき会話と、肌で感じるアメリカを満喫して、帰国しました。

十キロもあるカメラバッグも、仲間の支援をうけて二千カット(60本)スナップを撮る事ができました。最年長の私を除くと、全員が実年前の世代ですから、四季それぞれに華やかで、香り高く咲き競う花の様に、カメラに収まった姿は今も尚、鮮やかな印象として残っています。

『豚が木に登る』ごとき、と思われることも、大阪の土壌で培った環境の産物と受け止めています。

これからも、多くの出会いを大切にして、生きている間に、多くの人に優しく、勇気を与えられる努力と、常に平和を保つ心で、21世紀まで更なる飛躍をしたいものです。

五十周年記念誌を心待ちに

37年卒　植木功子

私が入学した時には、すでに市立清友高等学校でした。その後十七年経ってから府立に移管されましたが、その時には占春会会長さんをはじめ多くの方達が一丸となって、校名、校歌、校章はもちろん制服をも残して頂くよう奔走されて下さっていましたのを目の当たりにしました。当時の関係者皆様方の御苦労のおかげを持ちまして本年この校舎で、栄えのある五十周年を迎えられる事にうれしくて心から感謝しています。

それから、五十周年を記念しての記念誌の発行もうれしい事のひとつです。五十年のうちのたった三年しか在校していなかったのが、記念誌を買う事によって、清友の丸々五十年を手にすることができる！そんな欲ばった思いで今楽しみに心待ちしている私です。

卒業してあれこれ

昭和36年卒　小寺康子

今年は母校も五十周年を迎える事になり、ずい分前から準備が進められ、十一月には式典が持たれます。皆様方の沢山の参加を願っています。良い式典になるように祈っています。私は36年の卒業生なのですが、20周年、30周年と合同同窓会を開くことが出来ました。来年は30周年を迎えます。

33年に高校に入学したのですが、当時、三学級で一クラス50何人かはいました。

校舎は、木造建築でしたし、すき間だらけの廊下だったのですが床はピカピカに光っていました。掃除の時はよく磨いたものです。教室には、机と椅子がくっついて、重くて運ぶのがいやだったのを覚えています。

女子ばかりだったので、女としてこうあるべきだといろんな躾をして頂いたのですが、その時はうんざりしていました。

教師と生徒の中は、何かいい雰囲気がありました。よく先生とあちこち行ったこともありました。

十分お友達と遊んだり、また学習も出来たので、高校生活を悔いなく過ごすことが出来て、いい想い出も沢山残っています。

大学を卒業して、現在、教師生活20数年。結婚、娘二人の育児と仕事を両立してきました。

その下の娘も、今年就職しました。

自分の生活を考えていかないといけない年令になってきたようです。

主人も同じ教師をしていたのですが、今年校長になりました。私も相手にふさわしい奥様になっていかねばと痛感しているこの頃です。

高校の時のお友達とあちこち行くのですか、気楽にお付き合いができるのは、高校のお友達だと思うのです。

学年の世話をさせて頂いて十分な事はできませんが、来年30周年の合同同窓会を開きます。できるだけ沢山の方とお会いできたらと願っていますのでよろしくお願い致します。

こんな事をしたいとか、ご希望があれば私のところまでお知らせ下さい。

体の元気な間は頑張りたいと思っています。心に残る30周年ができる事を願って。

五十周年によせて

昭和38年卒　辻野伶子

占春会会員の皆様お元気でお過ごしの事と存じます。創立五十周年を迎え清友高校の歴史の一ページを記念する行事が執り行なわれます事は大きな喜びとするところです。社会の変遷と共に、清友高校も益々充実された、母校へと発展しつつあります。人生において人との交流は心の糧として、お互いに親しみ、又、同じ考え、想いを通じ合う時、そこには喜びや安らぎを又、楽しい語らいに胸が躍ることもあるでしょう。どうぞ今までよりも、深い人生を、お互いに味わうためにも、人との出合いを大切にしてゆきたく思います。占春会の皆様とのつながりを、より豊かなものへと繁栄してゆくものと、心より信じております。先生、会員の皆様のご健康と、感謝をいたしまして、今後共よろしくお願いいたします。

創立五十周年……今、思う事。

昭和42年卒　東海久美子

校門を入ると、ピンクと白の可愛い花がいっぱい!! そして、桜並木の玉串川。そう入学式の頃、桜は満開でした。初めて聞く清友高校の校歌は、今まで小・中学校で歌った校歌とは又違い、とても優しく、あじわいのある曲に思えました。二十五年も前の事です……私の高校時代は、バレーボール部に所属し、万年補欠ではありましたが、クラブにはじまり、クラブに終る、そんな三年間でした。熱心な顧問の先生、大学生のコーチ、そしていい先輩、後輩に恵まれ、夏休みも一日のお盆休み以外はすべて、毎日体育館、運動場でと練習。まっ黒に日焼けし頑張ったものです。いつも大阪代表の中には入る事が出来、近畿大会に出場したのですが、残念ながら、一回戦敗退の記憶しかありません。その頃、泣いたり、笑ったり、いろんな体験を共にし、青春を謳歌した仲間が、友達が、今二十三年過ぎた現在でもすぐ近くでいて、一緒にママさんバレーをし、その頃と同じ様に、いろんな事で、励まし、助けてくれます。その友とと昨年の春には、同期のクラブの友の御見舞いかたがた、卒業後、初めて広島を旅しました。新幹線の中、宿泊場所でも、懐かしい、〝清友〟の話が沢山！私達の頃の高校時代は、最近会員になられたばかりの皆様方とは違って、進学などに関して、そんなに深刻でなく、勉強の方もほとんどの人が、なんとかこなせばよいと言うような気軽な感じでした。そして、学校は大変楽しく、その一つ、クラスなどの文化祭、体育祭への取り組み意欲は、すごいものがありました。これは今も変わっていないかもしれませんね？私のクラスも例にもれず、〝サウンドオブミュージック〟〝ウエストサイド〟など、脚本、振付けから衣装まで、すべてクラスの人達でし、参加しました。テスト前の自習の時間も劇の練習やポスター作り、今思えばあまり学業に励まず、先生泣かせの生徒が多かったかもしれません。でも、これらの思い出は、決して忘れられない貴重なものだったと思っています。その時、歌った歌は、今でも仕事中、あるいは台所で口ずさんでいます。アルバムにあるその頃の写真を、私の子供達に誇らしげに見せる時もあります。本当にいい学生時代だったと、つくづく思います。高校時代の友とその頃の愛称のまま、主人も子供達も呼びあい、家族ぐるみで付き合っていけること、舅、主人、子供達にいつも感謝して、私は幸せものと思っております。クラスの同窓会も、バレー部の集まりもたびたび実現出来ることも、とても嬉しいことです。会員の皆様も青春時代、学生時代の友達を大切に、お互いプラスになる長い付き合いを、続けていって下さいね。きっと皆様の中には、私と同じ様な思いでおられる方々が沢山おられることと思います。

母となり初めて知る親の恩!!

昭和54年卒　林越元子

平成二年一月二十六日午前十一時四十分、待望の第一子長女栄莉が誕生。二十四日の夜破水し入院。三十八時間後元気な産声を上げた。陣痛の苦しみと睡眠不足で向かえた初産は、大勢の人達の励ましと努力によって無事完了。その瞬間の感動は四十週という出産までの道のりを経験し、同じ苦しみを乗り越えた者のみ知る筆舌に尽くし難いものであった。

分娩室で初めて我が子と対面した時、壊れそうにはかなくて、頼りなげで、触れるのが恐ろしい気がしたが出産の痛みを忘れる程愛しく思わず「お母さんよ。お母さんよ。よく頑張ったね。」と声をかけ、真紫色の小さな手を握りしめた。必死で生きようと泣く娘の姿に私も涙がこぼれた。

授乳の度、一生懸命お乳に吸いつき、まだ見えない瞳を私の方に向け、初めて経験する世界で必死に努力を続ける小さな我が子の姿に、この生命を守らなければと、改めて認識した。

生命誕生の神秘も、この世に生を受け、世の中に出た瞬間、否応なしに現実化させられ社会の一員として生きてゆく術を身につけなければならない。受胎から出産までの過程で日に日に変化してゆく自己の体調を見つめ、お腹の我がが子を気づかい、語りかけ、少しずつ親子の絆を作り出し、又、夫婦が共に親になるための心構えを準備した。人が人を産み育てるための準備期間が四十週という長い様で短い時間だと考えると、親に課せられた使命と任務は、出産後の生活のなかで生まれてくるのだと思う。日に日に成長する我が子に、自分の幼い日を映し出し、そのスピードに驚きながら必死で遅れまい、見逃すまいと私も又自身、成長の努力をしている。そして毎日の生活のなかで、自分の事以上に子の事で、喜怒哀楽が激しくなり感情の抑制がきかなくなる。そんな自分自身を反省したり、苦笑いしたり……。

そんななかで私は私の親の姿を想う。子に私の姿を、今の私に親の姿をオーバーラップしてみる。いろいろな場面が思い出される。親を非難したり、毒づいたり、自分一人で大きくなった様な顔をして何事もしてもらうのが当たり前だといわんばかりに、不平不満を口にした。目も見えず、口もきけず、ただ泣いて何かを訴えることしかできなかった私を一人立ちできるまでに育ててくれた親の心を思うと申し訳なさと感謝で今は胸が一杯である。出産前母に「陣痛は苦しいけれど、そこがこないと我が子とは対面できないのだから、痛いのを喜びなさい」と言われた。二晩も陣痛に苦しむ私の側に付き添い、共に寝ずに腰をさすってくれた。どんなに心強く有り難かった事か……。

私も母になり、娘に様々な想いを寄せている。ともすれば過剰になる期待を祖母である母が戒めてくれる。かって私がそうであったように子は必ずしも親の希望通りに育つとは限らない。どうしてやれば一番良いのかも、どのように育ててゆくのかも、今は親の私達が判断することなのだけれど……。それ故に私達も子と一緒に親になる努力を惜しまない。いつの日か娘も母になる時が訪れる事だろう。時が巡ってその日がくるまで、娘の母として、又、母の娘として、言葉にならない心を大切にしてゆこうと思う。この小さな足がまだ踏んだ事のない地を踏みおろし、根づく手助けをしてゆこうと思う。

母となったこの日、私は娘としても新しく生まれ変わった様な気がする。これから始まる明日に何が起こるか私は知らない。けれどこの感動と感謝の気持ちを持ち続け、出来事に対処してゆくつもりである。

追記、親になる喜びと不安、期待と焦り、父親であるが故の悩みを抱えて懸命に前向きの姿勢で努力してくれる夫に、心から感謝しています。

〃銀も金も玉も何せむに
まされる宝
子にしかめやも〃

山上憶良

吹奏楽部 第5回定期演奏会に向けて

吹奏楽部OB会会長　昭和59年卒　谷村淳司

吹奏楽部は昭和六十二年に第一回目の演奏会の幕を閉じ、早くも来年は一つの節目にもあたる第五回を数えるまでになりました。そのステップとして平成二年四月二十九日、西武百貨店横の八尾市文化会館(プリズムホール)大ホールで第四回定期演奏会を催しました。

出演者総数は六十名からで三部構成、第一部は現役のステージで序曲デボンシヤで幕が開き、二部はOBも加わりディズニーメドレーIIなど、皆様おなじみのポップスを楽しんで頂き、衣装もオレンジのオリジナルトレーナー姿で、三部は吹奏楽のための第一組曲というにバラエティにも富みました。また、アンコールでは勇気のしるしを演奏、ユニークな眼鏡をしたビジネスマンが登場し会場をどよめかせ、ウィアーオールアローンで幕を閉じました。

来年の第五回へ向けて今回の演奏会の練習中の四月一日に会場の予約に始まり、これから現役は夏のコンクールに向け練習、OBは月一度の練習会に汗を流します。秋の文化祭が終わると年内に曲目が決定します。年が明けると、現役は平日の練習に加え、日曜日のOBとの合同練習で休みがありません。その中でそれぞれ役割分担し、プログラムの作成印刷、案内状、チラシ、招待状等の作成印刷シナリオの作成、演出、衣装にと自分達で作る自分達の演奏会が出来上がるのです。これもひとえに顧問の先生の協力があってこそなのです。ありがとうございます。それと、お客様あっての演奏会です。来年は次のように行いますので占春会の皆様、是非来て下さい。来ないと損です。入場は無料ですが御希望の方には招待状をお送りしますのでハガキに「定演希望」と住所、氏名を明記の上、

〒633 桜井市粟殿一〇二四二一
谷村淳司宛お送り下さい。

記

清友高校吹奏楽部
第5回 記念定期演奏会

●とき
平成三年四月二十八日(日)
午後二時開演

●ところ
八尾市文化会館
プリズムホール・大ホール

《入場無料》

吹奏楽演奏会に招待されて

占春会

郵便屋さんがいつもの時間にバサリと郵便物を届けてくれた。白い角封筒で裏を見れば清友高校吹奏楽部。第四回定期演奏会。と書かれていた。カレンダーの4月29日に印を入れ、当日八尾プリズムホールへ出向く。現役OBの部員達、それに細田先生全員の出迎えを受けて場内へ、新装なりし場内は広く、聴きやすい適当な席を選ぶ。ぞくぞくと生徒達、卒業生、家族の人達、他校の吹奏楽部らしき人達で座席は埋まる。開演五分前のベル。やがて幕があがる。吹奏楽部OB会長、谷村淳司君の司会が始まる。一部はコンダクターは女生徒で、三曲。二部はコンダクター細田隆先生で、皆一生懸命タクトにしたがって曲が盛り上がってゆく。ディズニーメドレーは聴き慣れた曲もあって、いつの間にか片足でリズムをとっていた。三部は同じくコンダクター細田先生で、アルフレッド・リード作曲〝春の猟犬〟。わが家にアフガン犬を飼っているせいか、春の野原を疾走している猟犬の様が想像出来るほどの感動を覚えた。最後もリード作曲、〝吹奏楽のための第一組曲〟4つの楽章から成り立っており、あるときは荘厳に、あるときは軽快にと実に組曲としては立派な名曲であった。私は素人乍ら選曲もよかったと思う。

最後はアンコールにつづきアンコール。司会の谷村君もコミックに黒ぶちのメガネをかけて、舞台を歩くようなたのしい場面もあったり、私も知らず知らずに手が赤くなるくらい拍手喝采していたのである。

たのしいひとときをありがとう。益々の活躍を祈ります。来年も期待していますから。

■平成2年度　占春会役員名簿

会長	河合 聿子	21年卒	〒577	東大阪市足代新町~~2-48~~ 4-19	☎ 06-781-1616
副会長	中易 敬子	23年卒	〒577	東大阪市金岡3-24-16	☎ 06-721-8631
〃	永岡 征子	34年卒	〒591	堺市百舌鳥陵南町1-43	☎0722-78-4609
書記	安井 美幸	34年卒	〒581	八尾市恩智中町1-60	☎0729-43-6359
〃	辻野 伶子	37年卒	〒581	八尾市南本町5-3-11	☎0729-22-4503
〃	林越 元子	54年卒	〒636-03	奈良県磯城郡田原本町八尾8-5-2	☎07443-2-8687
〃	谷村 淳司	59年卒	〒633	桜井市粟殿1024-1 万葉レジデンス306	☎07444-6-0949
会計	柳生 和子	23年卒	〒536	大阪市東成区東小橋3-2-26	☎ 06-972-1707
〃	小寺 康子	36年卒	〒631	奈良市中山町西1-868-39	☎0742-47-0521
〃	植木 功子	37年卒	〒544	大阪市生野区巽北3-12-27	☎ 06-751-4259
会計監査	小林 慶子	20年卒	〒538	大阪市東淀川区豊里2-1-5-912号	☎ 06-320-1217
〃	中野 郁子	20年卒	〒535	大阪市旭区清水1-10-11	☎ 06-954-3927
理事	山崎 詔子	37年卒	〒537	大阪市東成区深江南3-7-8	☎ 06-976-7959
〃	大向 信子	38年卒	〒578	東大阪市吉田1-11-14	☎0729-62-4618
〃	東海 久美子	42年卒	〒581	八尾市南本町7-2-34	☎0729-92-0274
〃	川村 常子	45年卒	〒581	八尾市本町4-5-11	☎0729-22-6107
〃	姫野 保	57年卒	〒639-02	奈良県北葛城郡香芝町磯壁2-18-5	☎0745-76-7126
評議員	古川 通代	25年卒	〒577	東大阪市金岡2-5-3	☎ 06-729-7147
〃	坂口 君枝	48年卒	〒581	八尾市堤町1-40-4	☎0729-96-7991
〃	江本 雅子	41年卒	〒579	東大阪市六万寺町3-14-35	☎0729-82-5094
〃	藤平 ひろ子	43年卒	〒579	東大阪市弥生町10-9	☎0729-82-7919
〃	村上 千香子	51年卒	〒581	八尾市東山本町1-16-10	☎0729-96-5146
〃	三原 和子	53年卒	〒577	八尾市足代1-74	☎ 06-721-9865
〃	古田 清子	57年卒	〒583	藤井寺市春日丘2-6-8-2-244号	☎0729-38-1673
〃	浜田 明伸	62年卒	〒581	八尾市東山本新町8-9-2	☎0729-96-5307
〃	高林 真由美	2年卒	〒577	東大阪市長田1479	☎ 06-781-7872
相談役	羽田 敦	20年卒	〒565	吹田市山田西4-6-1-421	☎ 06-877-9357
〃	稲部 恭子	21年卒	〒543	大阪市天王寺区玉造元町8-18	☎ 06-761-0598

◇平成元年度　会計報告

本部会計　植木功子

収入		支出	
繰越残高	809,906円	事務費	29,780円
総会会費	72,000円	会議費	52,636円
	1,000,000円	通信費	434,274円
雑収入	13,149円	慶弔費	10,000円
		会報費	350,000円
		総会費	170,627円
合計	1,895,055円	合計	1,047,317円
		繰越金	847,738円

※上記会計報告書通り厳正に監査し、相違いない事をご報告申し上げます。

平成2年3月31日　会計監査　小林慶子
〃　中野郁子

◎現在占春会基金一、五〇〇万円余有り

しっかり貯蓄してきた基金は、五十周年の記念式典や記念行事として時計塔を贈る費用に使います。21号の会報を楽しみにして下さい。奮って賛助金を振込み会報購読者となって下さい。詳しくは下記を読んで下さい。

記念誌は二百部です。五十年間の母校の歴史が写真入りで掲載されています。これも下記を読み、申込み先を間違わぬように!!

創立五十周年記念誌が出来上がります。

昭和16年創立よりの50年間の母校〝清友〟の懐かしい写真の数々。想い出深い名場面。内容も立派な記念誌が出来上がります。ご入用の方は左記へ（再版出来ません）

記念誌（送料共）二、五〇〇円

《送り先》
〒544　大阪市生野区巽北三―一二一
一二七　植木功子
〇六―七五一―四二五九

占春会報購読希望のみなさまへ

昭和49年以前の卒業生の方で、会報購読希望者は〝賛助金〟一口三、〇〇〇円。左記へクラス会等でご存じない方は、すすめてください。

《送り先》
〒631　奈良市中山町西一―八六八
一三九　小寺康子
〇七四二―四七―〇五二一

20号の発行までに賛助金お振り込み下さった方

20年卒　岡田きよ子
〃　小西　貴子
21年卒　山中　法子（西尾）
33年卒　竹森　由江（中易）
36年卒　寺北八壽子（松浦）
〃　後藤佐江子（増井）
〃　長澤　克子（岡田）
37年卒　城内由美子（仲島）
〃　岡崎　典子
38年卒　田中　寛子（畑）
〃　田口　圭子（川上）
〃　鳥取　桂子（田辺）
42年卒　小牧登枝栄（北山）
43年卒　古本　貴子

「編」「集」「後」「記」

☆会報20号は、非常に原稿が集まりにくく、発行が遅くなりました。〔卒業生通信〕に役員諸姉弟の協力を得ました。

☆先生方を囲んでの、学生会、クラス会の幹事の方はどしどし原稿を送って下さい。クラブ活動のOG、OBk方を交えての原稿も欲しいものです。

占春会のいわれ

同窓会の名を「占春会」といいます。昭和二十年三月、第一期が卒業した時、初代校長生田鹿之丞先生はその慶びを次のような詩によまれました。

浅深紅白満庭梅
教養多年一様開
莫道園中才子少
百株皆是萬葩魁

多年の教養が身を結び、一様に美しく巣立っていく卒業生達を、春の魁として紅白とりどりに花開く梅花に擬らえ、祝福されたのであります。

ついでこの梅にたとえた才子の集りを「占春会」と命名されました。その名は、清友の象徴である梅の花に因んで、次の水戸烈公の梅花の詩の第四句より採られたのであります。

弘道館賞梅花　徳川才昭

弘道館中一樹梅
清香馥郁十分開
好文豈謂無威武
雪裡占春天下魁

最初に「莫道園中才子少」とよまれた卒業生は、今では多くの男子の才子を混えて愈々盛大になりつつあります。